

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400030		
法人名	株式会社ベストビジネスコミュニケーション		
事業所名	認知症対応型グループホーム結の郷		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町吉原1180-1		
自己評価作成日	令和6年 1月4日	評価結果市町村受理日	令和6年 6月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4792400030-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和6年 4月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるだけ家庭に近い環境で、ホーム職員は入居者様ひとりひとりに合わせ、又ホーム職員とも理解できる関係を築き、家事や色々な作業を入居者様と職員一緒に行い共同生活をしています。レクリエーションを通して認知症の進行を緩やかに、健康的な暮らしができるように支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年が経過した当事業所は、米軍基地や商業施設等が隣接した住宅街にあり、開設当初から自治会への加入や地域住民との日常的な交流を継続し、地域の事業所として周知されている。看護職員を配置し、利用者の日頃の健康管理に努めるとともに、利用者や家族の希望に添って馴染みのかかりつけ医や訪問診療等と連携し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。重度化や終末期ケアに向けては、医療機関との支援体制の整備や職員研修を実施し、家族と協力しながら事業所での看取りに取り組み、今年度は、4名の看取りの実績があり、グリーフケアも実施している。食事は、「手作りの温かい食事を提供したい」という事業所の方針で、調理専従職員を中心に三食とも事業所で調理し、食事が楽しみとなるよう、季節や行事等に配慮し、利用者の希望を反映した献立が提供され、利用者から「美味しい」と満足が得られている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：令和6年 6月 10日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアに対し悩んだ時は、理念を基に話し合い共有しています。	開設時に作成された理念は、6項目から成り、利用者や職員が集う2階の居間や居室のある3階フロアに掲示している。職員採用時は、管理者が理念を説明し共有している。事業所は、利用者の認知症による言動や行動への対応に課題が生じた時は、職員間で話し合い、理念の「利用者一人一人の尊厳を守る」ケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方と積極的に挨拶を交わすように努めています。	開設当初から自治会に加入し、区長が運営推進会議の委員として参加し、協力を得ている。利用者の散歩時は、近隣住民に挨拶し、庭の見物を行う他、夏祭りでは、子どもエイサーの「道ジュネー」に利用者も参加している。近隣住民から果物等の差し入れや入居相談等での立ち寄りがあり、事業所からもパイン等のお裾分けを行う等、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェに参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況の報告。	運営推進会議は、利用者や家族、行政や知見者、地域代表者で構成している。今年度は、コロナ感染症の発生や職員の入れ替え等が相次ぎ、各委員に事業所の活動、事故等の資料説明や外部評価結果等を報告し、直接意見を求める書面会議を2回開催している。議事録は、各委員に配布し、外部評価結果とともにファイルにして玄関に設置している。	運営推進会議は、年6回（2か月に1回）の開催が望まれる。コロナウィルス感染症の5類移行後においては、対面式での会議開催にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北谷町役場福祉課と町内GHと定期的に集まり意見交換を行ったりしています。	行政とは、運営推進会議や2か月毎に開催する町グループホーム連絡会で情報交換等を行っている。日頃は、管理者が各種申請手続き等で窓口を訪問し、事業所の状況を伝えている。事業所でのコロナウィルス感染症のクラスター発生時は、行政から防護服やマスク等が提供される等、協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 6月 10日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ヒヤリハットがあったり、ケアについて疑問に思ったときは身体拘束について職員同士話し合い又ホーム内で勉強会実施。	身体的拘束等の適正化のための指針を整備し、定期的に身体拘束等の職員研修や勉強会を実施している。法人代表や管理者等で構成する「身体拘束委員会」は、3か月毎に開催し、議事録を整備して職員に周知しているが、委員会への第三者の参加に期待したい。委員会では、フォーリーや経鼻胃チューブ抜去防止のため見守りを強化し、転落防止策に低床ベッド対応を検討する等、身体拘束をしないケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員ひとりひとりからケアに対し困りごとはないか個別で相談しやすいように管理者から声掛けしています。どんな些細な事でも報告しあい、防止に努めています。	高齢者虐待防止のための指針やマニュアルを整備し、定期的に虐待防止や不適切なケアについての職員研修や勉強会を実施している。虐待防止担当の管理者は、職員の疲労感やストレスが利用者のケアに影響しないよう職員に「ケア上の悩み」を個別に聞き、相談に応じている。利用者への言葉遣い等、気になる職員には注意を促し、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を参考にホーム内で勉強会を実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時にご家族様に説明を行い契約時にも説明を行っています		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は、入居者様から日頃の会話の中で、ご家族様からは訪問時に聞くようにしています。	利用者からの意見や要望については、日々のケアの中で聞いている。日中を2階フロアで過ごす利用者から「夜は、3階の部屋に戻って休みたいので夕食を早めてほしい」との声があり、6時の夕食時間を5時半に変更している。家族からは、面会時やライン等で聞き、「親のカジマヤー祝いを事業所でやりたい」等の要望に対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和6年 6月 10日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員から意見、提案を聞く機会を設けている。	職員の意見や提案は、不定期に開催する職員会議や朝の申し送り時に聞く他、日常業務の中でも随時、管理者が聞いている。年2回、管理者による職員への個別面談も実施している。職員から、手拭き用ペーパータオル等の物品購入の依頼があり、法人で対応している。介護記録については、全利用者の状況が確認しやすいよう記録様式やファイリング等の見直しが提案され、業務改善に繋げている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は個人面談を行い、意見や要望を聞き、職員一人ひとりの心と体と身体の健康づくりに配慮しています。	就業規則には、ハラスメント防止や各種労働条件が規定され、年次有給休暇等、取得されている。年2回、人事考課を実施し、昇給等に反映している。健康診断は、日勤者は年1回、夜勤を行う職員は、年2回実施している。ハラスメント防止規程やハラスメント対策マニュアルを整備し、定期的にハラスメントの職員研修や勉強会を実施し、職員に周知している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の意見、提案、職場の環境の把握に努め、代表者にホーム状況報告し改善が必要な時は伝え取り組んでいます。資格支援制度を活かし資格を取得した職員もいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北谷町役場福祉課と町内GHと定期的な集まりに参加し他の事業所との交流を図っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様やご家族様に意見をして頂き不安な事、要望を聞き安心していただけるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和6年 6月 10日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の意見の際、ご家族様から様子や生活の様子、不安な事を聞き取り、入居後も様子を報告したり話し合い信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様の意向を把握し安心して生活ができるようjに職員とともに支援を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気職員とともに過ごしている。人生の先輩だという姿勢を忘れずに対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時、電話などで生活の様子を伝え、ご家族様もできる事は一緒に行って頂いています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧盆や正月などの行事は一時帰宅できるように支援しています。	利用者と地域社会との関係性は、アセスメントや本人、家族等から聞いて把握している。事業所は、利用者の自宅周辺や出身地域等をドライブし、馴染みのスーパーに立ち寄る等、支援している。長年、神宮参拝を行っていた利用者には継続できるよう支援している。散歩時は、地域の人と触れ合い、盆・正月の一時帰宅時は、親族との交流を支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和6年 6月 10日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士の席の配置、トラブル回避の為距離の工夫を行い、いい関係で過ごせるように対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先に情報提供を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から聞いて一緒に考えています。把握が難しい方は家族や本人の表情や言動をくみ取って支援しています。	利用者の思いは、日々のケアの中で直接聞いている。「菓子パンやアイスクリームが食べたい」との声には、おやつでの提供や家族に用意してもらう等、対応している。「何かお手伝いしたい」には、日中活動に食器拭きや衣類たたみ等を介護計画に位置付けて支援している。発語等、困難な利用者には、家族から情報を得て好きな歌手の曲を流す他、好きな食べ物が選択できるよう声かけし、オムライス等献立に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の意向を把握し安心して生活ができるように職員と一緒に検討しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズム、心身の状態の変化を把握し職員とともに共有し支援しています。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和6年 6月 10日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の意見、要望を聞き職員と生活の様子、状態を確認し合い介護計画を作成しています。	担当者会議には、利用者や家族、計画作成担当者等が参加し、利用者の「やりたいことやできること」等、意向を確認して介護計画を作成している。計画は、長期目標を1年、短期目標を半年とし、介護職員と利用者の状態を確認しながら半年毎にモニタリングを実施している。入退院時の状態変化や看取り開始時は主治医も交えて話し合い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の生活の様子や気づきは個別記録に記入し情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、他の事業所からのアドバイスを受けながらニーズに合わせて対応できるように支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し地域との交流会に努めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の2/3は訪問診療を契約しているので週1ペースで主治医が来られる時もある。相談、助言を受けて支援をしています。	入居前からの馴染みのかかりつけ医を継続している利用者が2名で、定期受診や他科受診は家族が対応し、必要時は職員も支援している。月に2回の訪問診療を利用している方は7名で、受診結果は職員が記録等を行い、主治医からの返書等も含め、情報は家族や職員に報告し、共有している。利用者は、特定検診等や必要時の血液検査等を受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 6月 10日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お薬の事や状態の事を相談し、助言を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には日頃の様子、ADL、服薬状況、病歴を伝えています。お見舞いに行き症状の把握、看護師にも伝え担当相談員と情報交換に努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族に説明をし、症状に応じてご家族・主治医と相談しています。	重度化や終末期に向けた対応については、契約時に指針を示して説明し、同意書を取っている。家族等の意向が変化することを前提に、入居後もその都度意向を確認している。職員は看取りについて研修を実施し、指針を共有して体制を整備している。看取りの過程で、「カジマヤー祝い」や「誕生会」等も実施し、1年間に4名の看取りを行っている。告別式後に、職員が弔いの三線演奏をしたり、家族と職員で利用者の思い出話をする等グリーフケアも行っている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり、急変や事故発生時に対応できる体制である。	緊急時・事故対応マニュアル等を整備し、応急手当等について学習している。緊急時の連絡体制を構築し、職員は緊急時や夜間帯の対応についても理解している。事故発生後は報告書を作成し、当日の職員で再発防止について話し合った内容を報告書に追記し、当日の申し送りや翌朝の申し送りで職員の周知を図っている。ヒヤリハットと事故の報告書が同じ様式で作成されて綴られていた。	ヒヤリハットと事故の報告書の様式の見直しが望まれる。再発防止検討会議の議事録の整備にも期待したい。
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	昼夜想定自主避難訓練を実施しています。三日分の食料も備蓄しています。	災害対策マニュアルを整備し、昼夜想定避難訓練を年2回実施している。実施報告書が確認できない回があった。定期的に防災設備点検を行っている。備蓄は利用者の3日分の食料や飲料水、生活用品、生活用水等を備え、点検や補充を行っているが、備蓄リストは作成していない。災害発生時や感染症発生時のBCPを令和5年12月に整備し、月1回の法人の管理者会議で今後の取り組みについて話し合っている。感染症の研修会を複数回実施しているが、予防やまん延防止の取り組みはこれからとしている。避難訓練関係書類の整備、職員の分も含めた備蓄、備蓄リストの作成に期待したい。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和6年 6月 10日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様への話し方や態度に十分に配慮しながら対応しています。	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、視線を合わせて落ち着いた声のトーンでゆっくり話すようにし、馴れ合いやぞんざいな口調にならないよう気をつけている。利用者が自己決定しやすいようわかりやすい言葉で選択肢を準備したり、英語や方言等の会話にも対応する等配慮している。利用者1人ひとりの事情等を把握し、申し送りでは病名を出さない等留意している。誕生会や「カジマヤー祝い」を実施している。個人情報保護方針や利用目的を整備して家族等に説明し、同意書を取っている。方針等は公表している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちをうまく伝えきれない方もいるので十分とはいえませんが、本人にわかりやすい言葉で話し、自己決定しやすいように対応するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本あるのですが、一人ひとりのペースがありますので気持ちに添って対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の時はおしゃれ着をきたりメイクをしています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根っこ取りや食器拭きのお手伝いに参加しています。	「手作りの温かい食事を提供したい」という方針で、食事は、平日の昼食と夕食を調理担当職員が、それ以外はシフト毎に職員が調理して提供している。オムライスや朝食のパン、アイスクリーム、バナナ等利用者の要望を献立に反映するとともに、食の細い利用者は好きなものの分量を多めにし、お腹がすいたという方にはオニギリや菓子パンを提供し、そばの好きな方にも個別に提供する等対応している。利用者全員でもやしのひげ取りを行い、皮むきや食器拭きをする利用者もいる。職員も利用者と同じ食事を一緒に摂り、味付けや煮込み加減等について会話をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和6年 6月 10日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人に合わせた食事形態や好み、栄養バランスの工夫をし温かい飲み物のなどを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で困難な方は職員が口の中の残食を取り除いたりして本人に合わせた口腔ケアを行っています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に合わせた排泄誘導、声掛けを行っています。	排泄支援に際しては、トイレでの排泄を促し、短くわかりやすい言葉で声かけをして、「便」等の言葉は使用しないように努めている。日中は8名の利用者のトイレ排泄を支援し、夜間はトイレ排泄やポータブルトイレの使用、オムツ交換等を支援している。排泄支援時はドアや二重カーテンを閉めて支援し、失敗時は浴室に案内してシャワー浴で対応している。2・3階にトイレがあり、時間帯、また本人の希望によっては、3階のトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫や適度な運動、マッサージを行っています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、午前中に入浴を行い、本人が入りたくない場合は時間を変えたりスタッフを替え対応しています。	入浴は日曜日も含めて1日越しの週3回支援している。体操やテレビ鑑賞の後に入る利用者や自分でゆっくり入りたい方等に対応している。羞恥心に配慮し、慣れ親しんだ職員が支援するように努め、同性介助が厳しい場合は承諾を得て支援している。入浴中は会話が楽しめるようにしたり、安心して入れるよう声かけを続ける等工夫している。好きなトリートメントを使ったり、入浴後に乳液等を使う利用者がいる。拒否がある場合は、手を温めたり、足浴等でスムーズな入浴に繋げている。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和6年 6月 10日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に合わせて自由に休息できるように対応しています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりのお薬の内容はいつでも確認できるように薬情をつづっています。服薬時に職員二人でダブルチェックし服薬後の袋はセットにまた戻して全員服薬済か再度チェックしています。	「服薬手順マニュアル」を整備し、職員は薬のセットのダブルチェック、内服薬や白湯の準備、与薬前の事前確認をし、確実な内服の目視、与薬後の記録等を行っている。昨年11月に1回誤薬が発生したが、再発防止について話し合い、事前確認を徹底して与薬後の空袋を残して確認する等職員で周知し、その後の誤薬はなく、安全な服薬支援を継続している。薬の変更等は申し送りで共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな方、塗り絵が好きな方、カラオケが好きな方など個々の楽しみを職員と一緒に楽しんで過ごしています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日や希望があれば散歩やドライブにでかけています。	利用者は、事業所周辺の散歩をして近所の庭の植栽を眺めたり、近隣住民と挨拶を交わしている。屋外スロープで日光浴をする利用者もあり、重度の方もベランダ等で花壇を眺めて外気浴をしている。地域の子どもエイサーの「道ジュネー」に参加し、一緒に歩く利用者もいる。職員は、利用者の要望に応じて、コンビニや馴染みのスーパー、役所、元の職場、自宅周辺へのドライブを実施している。家族と外食をする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族にお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和6年 6月 10日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも話せる機会を設けています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、職員と一緒にソファでテレビを見ながら本人がくつろげるように心がけています。	共用空間(2階)は和室2間をオープンにし、廊下や玄関内フロアも合わせた広い空間となっている。床の間や玄関フロアの壁等に大きな墨書や利用者の作品、季節の飾り物等があり、大型テレビも置いて家庭的な雰囲気づくりをしている。利用者は日中もリビングで過ごすことが多いため、ベッドやソファベッド、大きなソファ等数台を窓近くやコーナーに配置し、利用者が気に入った場所で過ごせるようにしている。職員は定期的に掃除や消毒をして清潔を保つように努め、一緒に掃除をする利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチンで職員とお茶を飲みながらくつろいだり外の景色を眺めゆっくり過ごせる空間。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族や花の写真を持ってきて飾ったり家族の手紙を壁に貼ったりと本人、家族が好きな様に工夫している。	居室は3階にあり、居室ごとに壁紙やカーテンの色を変えて部屋づくりがなされ、居室にはベッドやタンス、呼び鈴等が設置されている。各居室とも広い窓か、2つの窓があり、換気がしやすく、整理整頓されている。利用者は寝具や時計、カレンダー、テレビ等を持ち込み、写真や花を飾っている。各々の訪問診療の連絡先を掲示している。転倒の多い利用者については、職員で検討し、ベッドを片付け、厚めのマットと数個のクッション等で安定できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下には手すりを設置しつかまり立ち、歩いて移動しやすいです。		